

伴奏講座

第7弾、好評のうちに終わる

1泊2日 日にち：2月13日(土)～14日(日) 会場：川崎市民プラザ

♪ここ数年3回シリーズで実施してきた伴奏講座ですが、2009年度は昨年11月に20周年記念コンサートに取り組んだこともあって、1泊2日のみの企画となりました。

講師を含めて29名の参加でした。半数の方が初めての参加だったこと、また定期的に地元で伴奏をしている(始めた)伴奏経験者の参加が増えてきたなどが今回の特徴でした。



遠くは千葉県や広島県からの参加もありました。また、「演奏交流会」での審査員の一人青山義久氏が夕食から参加され、二日目に参加者と一緒に「伴奏のヒント」を実践されたので、例年とは一味違った厚みのある内容になったことと思います。

《質問のいくつかを紹介すると》

質問・・・うた声で伴奏しているとき何を考えているのか(例えばコード進行とか)。

答え・・・うたい手もいるし、聞き手もいるし、その音楽を全体でどうやっていい音楽にしようか。例えば、1拍目をはっきり分かるようにとか、アフタービートで弾んだ感じで弾こうかとかリズムを考えたり、もちろんコード進行も考えています。

質問・・・自分も一緒に歌いながら伴奏していると途中でわからなくなってしまうことがある。そんな場合にはどうしたら良いか

答え・・・輪唱が入ったりすると迷子になる

ことがあります。そんな場合は4小節でワフリーズとか、6小節でとかフレーズでつかむといいと思います。

質問・・・「神田川」を弾くとき細かい音が続くところがあります、伴奏で工夫できる例を教えてください。



答え・・・結論からいえば、細かいところをいちいち弾く必要はない。和音を分散して入れたり、対位旋律を使ったりするといい。そのためにも和音をしっかり覚えて欲しい。などの質問が出ていました。

《二日目の様子》

二日目から参加した方のためにざっと1日目の復習をした後、青山義久氏から「学生時代」のプリント譜面を参考に和音の弾き方を実践しました。そして昼食後は実際に自分で譜面を書いて伴奏をつけてみる実践へと進みます。時間の制

約もありいきなり譜面を起こすのが難しい人のために、「若者たち」のコードつき譜面が配られていました。机の間を回っている講師の池田氏と青山氏に手を上げては質問する姿があちこちで見





られました。1時間半程度でしたが、出来上がったものを5~6人の方が実際に演奏してみても講師から“何をしよう

したのか”の説明とワンポイントのアドバイスをみんなで聞き合いました。(写真は自分でつけた伴奏を披露して喜びの参加者)



~~~~~  
夕食後の交流会の様子・・・参加者の紹介を兼ねて歌声風に、希望者は伴奏の実践！。参加者の自己PRのいくつかを紹介すると・・・

□70歳で改めて始めた超初心者です。小学3年生のとき、学校にあったベースなしのトンボ手風琴をいたずらし「異国の丘」を弾いた記憶があります。もっか「クンパルシータ」を練習中です。

□東京アコーディオンクラブの前を通りかかったとき練習の様子をガラス越しに見て、小学時代から憧れていたアコーディオンを始めて数年たちます。なかなか上達しませんが楽しく続けていきたい。

□現在、ハーモニカが主のバンドでバスアコを弾いています。出会いは26歳頃ですが1年くらいで止めてしまい、70歳から再度始めました。

□月2回、年金者組合のうたごえ(オオルリ)で伴奏をやり始めて3年になります。×



□ディーを弾く伴奏から抜け出したいと参加しました。

□歌が好きでうたごえ喫茶に通いだしてアコの音色に魅せられて始めました。広島で月1回うたごえ喫茶を開いています。お店の協力もあり今年7月に40周年を迎えます。

□18歳の頃、大学の中庭で「一緒に歌いましょう」の声に誘われて、みんなで肩組んで歌ったのがキッカケ。ソロをやるより伴奏しているときが楽しい。

□学生時代、合唱団で出会った。退職後千葉アコーディオンサークルに参加。近所の方々と「歌とおしゃべりの集い」を楽しんでいます。老人ホーム2箇所へ毎月ヴァイオリンの人と歌手の3人でを行っています。



□現在音楽療法士の勉強をしています。3月で卒業なので高齢者施設での歌伴を目標にしています。

□5年前に始めましたが、音楽の知識がなくなかなかおぼつきません。

□幼稚園で園長をしています。アコーディオンはうたごえ喫茶で出会い、平山教室で数年習っています。

□45歳のとき、いい区切りだし音楽センターの教室がすぐ近くにあったから始めて



みた。伴奏に取り組むようになって2年目、つたない演奏でも歌っていただけることに感謝。

□チェブラーシカという映画、ワニのゲーナが弾いている曲を弾きたかった。現在、音楽センター土曜教室で習っています。



(写真は青春の歌に振り付けをする参加者)

□20代の頃3年ほどやっていました。その後30年近くたってネットで音楽センターの教室を知り、友達の名前を見つけたので練習日に見学に行き再開することに。再開後6年くらいになりますがブランクが悔やまれます。

□アコーディオンは子どもの頃見たNHKのど自慢、平塚七夕まつりで傷痍軍人が奏でていた「湯の町エレジー」が出会い。ピアノアコ1年で挫折、ポタンアコに憧れて転じ2年目、平塚から来ました。

□労音の機関紙に載っていた教室生募集を見て習い始めた。アコーディオンを弾いていたことで社会と関わりができることが生きがい(老人ホームで歌の伴奏など)

□小学校のときの図工の先生が音楽集会でアコーディオンを弾いていて、いつかやってみたくとずっと思っていて念願がかない始めたのが20数年前です。でもまだまだです。(↓青山先生も伴奏で参加)



□むかし、教員をしていた時に同僚に薦められて半年くらい習いました。長年のブランクの後、募集の広告を見て三多摩アコーディオングループに入り再会しました。何をやっても三田坊主ですが、アコーディオンだけは長々と続いています。

□ポリオ人たち(学生)が肢体不自由児の施設に遊びに行くサークルを作っている中に高校生のとき入りました。その人たちがうたごえ喫茶に連れて行ってきて衝撃を受けました。そして「ともしび」の器楽講座に入ってアコーディオンを手にしたのが始まりです。それから25年近くブランクがあり、数年前関東アコーディオン演奏交流会に始めて行った時伴奏講座の講師、池田健さんと出会い池田さんたちの“バンド・アミーゴ”に入れていただき、第2のアコーディオン人生を歩き始めています。

#### 二次会の様子・・・

参加者からお酒の差し入れもあって、交流会終了後部屋に戻ってからも話が弾み交流が続きました。



集合写真は参加された方々(都合で途中帰られた方が数人いました)



